



2025年11月27～28日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で実施した噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。

QRコードからもアクセスできます→

- ・噴火湾内は平年通り冷却が進み、下層まで均一な水が形成されつつあります。
- ・湾外の150m以深は平年より3～4℃高い水温になっています。

【水温の鉛直分布】

大気からの冷却により鉛直混合が進み、噴火湾内外の海面から深度60m前後まで11～12℃台のほぼ均一な水温になっています。また、湾外の水深150～200mでは9～10℃台で平年より3～4℃程度高くなっています。

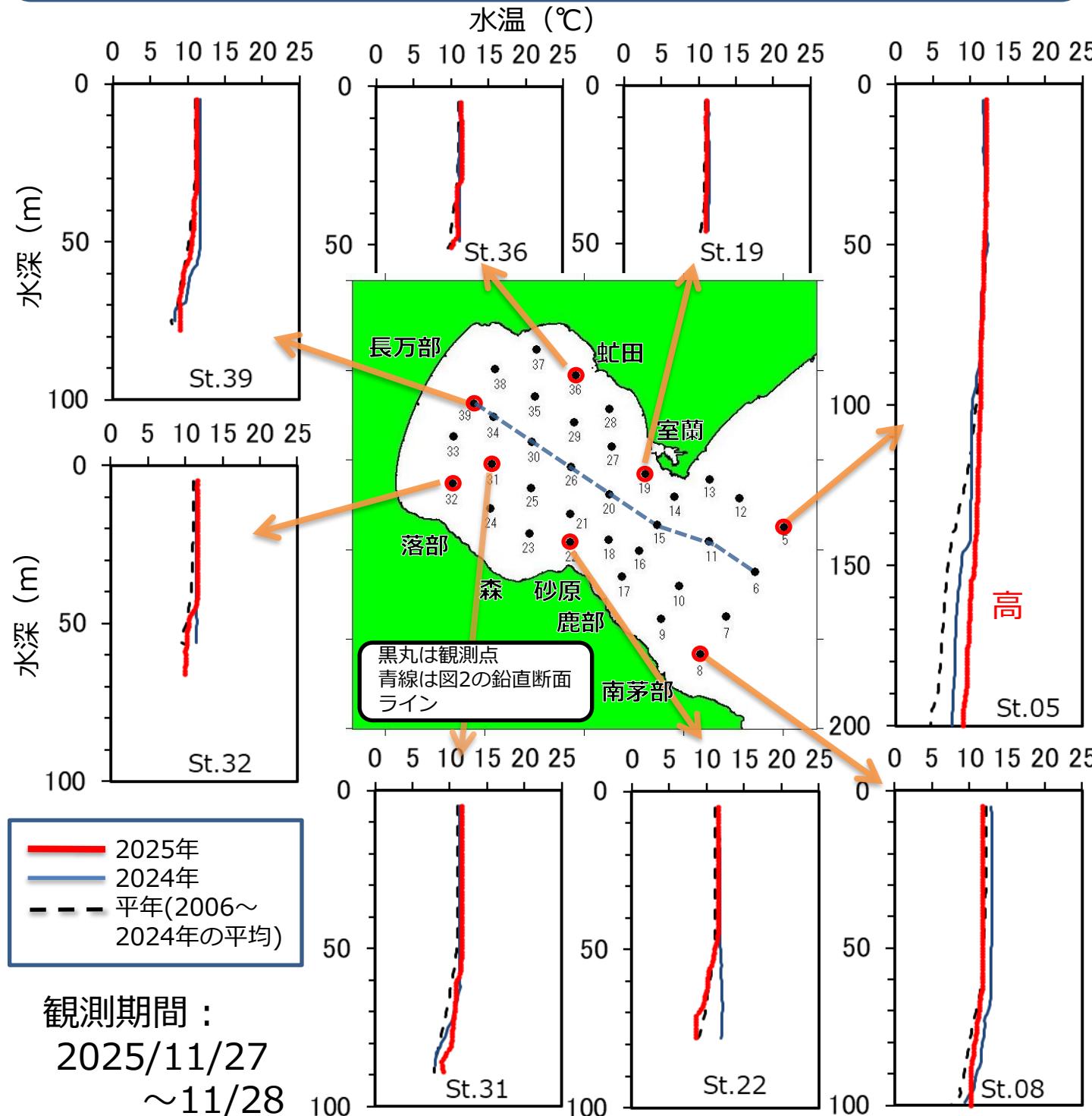


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水温、塩分、溶存酸素の鉛直断面分布】

9月時点で湾外～湾内の水深20m以深に暖流系水（水温6°C以上、塩分33.6‰以上）が分布していましたが、11月には気温低下に伴う海表面冷却により鉛直方向の海水の混合が進み、表層から深度70m前後まで水温11～12°C台の均一な水（冬季噴火湾水）に覆われています。溶存酸素は11月は湾内の水深60m以深では上層と比べ低い値になっていますが、概ね3ml/Lを上回っていました。

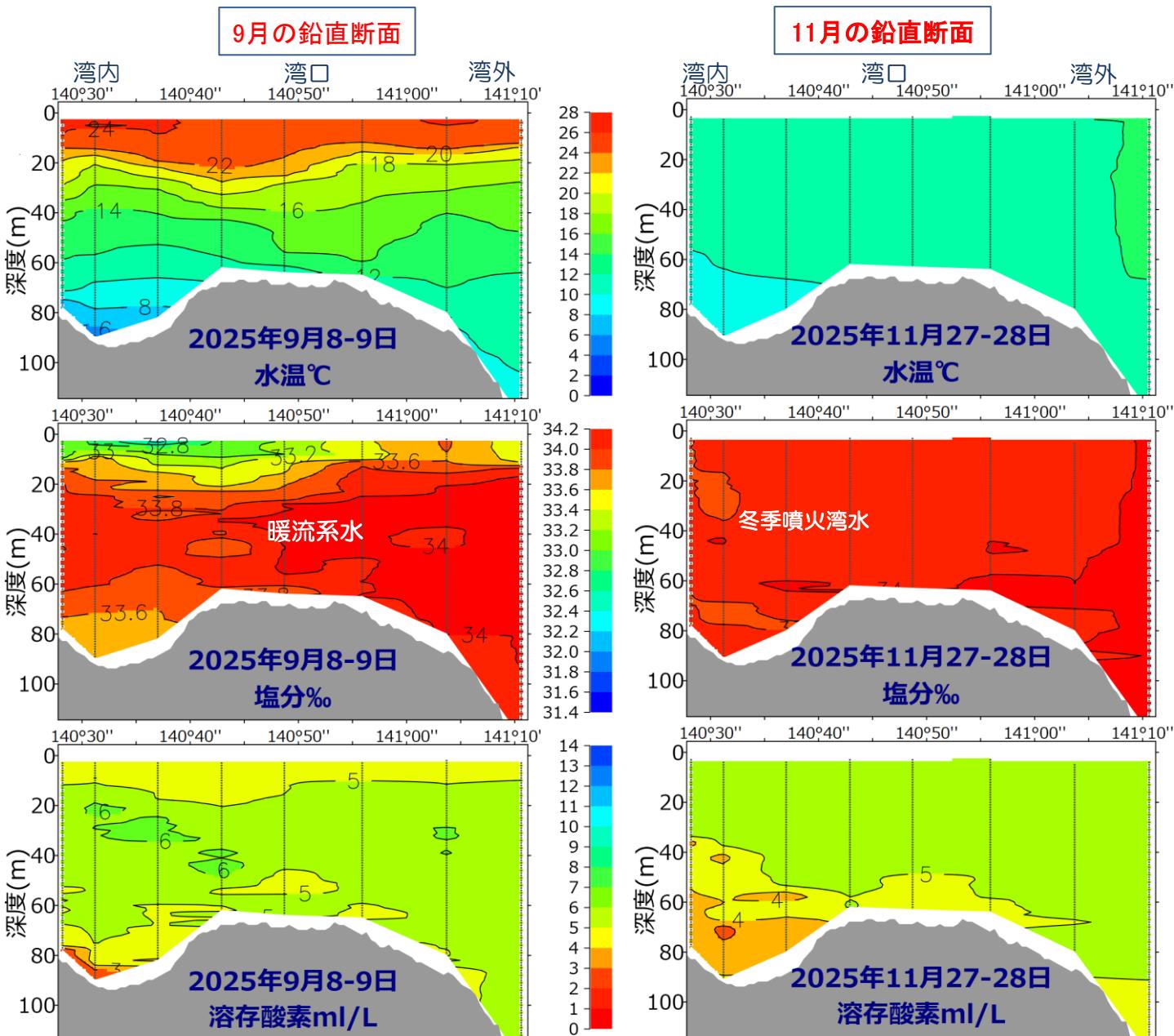


図2 水温・塩分・密度の鉛直断面図（左：9月、右：11月）
鉛直断面のP1地図の青破線を参照

図中縦点線は観測点

【底層の溶存酸素分布】

海底直上の溶存酸素の水平分布を図3に示したところ、湾内のはほぼ全域で3ml/Lを上回っていました。

9月時点では、湾内中層に分布していた暖流系水が冷却に伴い海底に到達したことから、海底の貧酸素が解消したとみられます。今後、鉛直混合がさらに進むことで、海底付近の溶存酸素は上昇すると見込まれます。

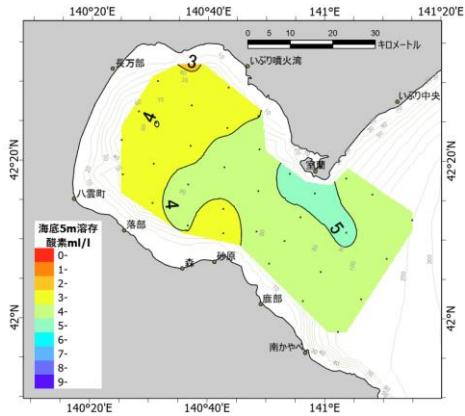


図3 11月の海底上5mの溶存酸素量(ml/L)の分布